

分科会 22

リハビリを応援する地域精神保健のありよう

～関係性・システム～ (精神医療に対する怒り・傷つきも語り合おう)

ファシリテーター: 伊藤順一郎(メンタルヘルス診療所 しっぽふぁーれ)
福井里江(東京学芸大学)
ゲスト: 竹端寛(山梨学院大学)
奥野栄子(BPD家族会)
奥野信子(BPD家族会)
藤田英親さん(国分寺すずかけ心療クリニック)

今回の分科会、以下のようなプロセスで行いました。

1. **伊藤自身の語り**: 開業して、訪問活動で日々を過ごしている立場から、「強制入院に頼らない支援をしていく」と志したときに支援者に必要な変化として、「利用者や家族と、支援者との関係性のあり方」を話題にし、自分の体験をもとに話をしました。
大切なのは、いつなんどきでも当事者本人の苦悩をわかろうとする姿勢であり、その為の対話を続けることが、その人の尊厳を守り、本来の彼らの誠実さに戻ることを促進するように思う、というような内容でした。
2. 伊藤の話を受けて、参加者の皆さんに4人一組になっていただき、感じたこと考えたことを話し合っていました。ゲストのみなさんにはグループの周りを歩いて、語りに耳を傾けていただきました
3. いくつかのグループの皆さんにコメントを発表していただき、それを受けてゲストの皆さんに語り合っていました(リフレクティング)。
4. ゲストの皆さんの語りを聴いたのちに、再び参加者の皆さんにグループで語っていただき、コメントを話していただきました。
5. グループからのコメントを受けてゲストの皆さんに再度語り合ってください(リフレクティング)、さいごに伊藤がこのプロセスを通じて感じたこと、考えたことについてお話をさせていただきました。

全体を通じて、参加された皆さんが、安心してご自分の心を開き、自分の感覚や考えをめぐらし、対話の空間が分科会の中に生まれたように感じました。

何が結論ということではなく、自分たちの思いを対話として話し続けることの価値を見いだしたように思います。

《伊藤順一郎(メンタルヘルス診療所 しっぽふぁーれ)》